



和光技研株式会社

2020

Technical Report

Planning & Engineering

WAKO GIKEN



目 次

contents

■ 巻頭言	01
専務取締役	坂井 敦行
■ 技術レポート	
河川環境整備事業の採択におけるかわまちづくり支援制度と CVM	02
技術本部 河川環境部	本間 英敏
砂防堰堤の健全度評価を目的とした漏水調査事例	06
技術本部 道路構造部	小岩 晃 宿田 浩司
低コスト GIS（地理情報システム）の構築事例	10
技術本部 情報システム部	山本 博貴
河川横断水路施設の改修における留意点	14
技術本部 水工部	長束 亮平
■ 編集後記	16
技術本部 執行役員部長	柏倉 秀二

巻 頭 言

f o r e w o r d

専務取締役

坂 井 敦 行

技術士

(総合技術監理部門、建設部門)

APEC エンジニア

MBA (経営管理修士)



平素より弊社に対するご指導ご厚意を賜り、皆様には心より感謝申し上げます。

弊社は、昭和39年(1964年)の設立以来、北海道に根ざした総合建設コンサルタントとして、この半世紀以上のあいだ地域住民の安全で安心な暮らしを守るべく、建設に関わる技術の向上に努めて参りました。

2020年1月28日、北海道内で初めて新型コロナウイルスに感染した患者が確認されました。その後、感染者が増え続けた北海道では同年2月28日に「新型コロナウイルス緊急事態宣言」が北海道知事から発表されました。全道民に対して外出の自粛が叫ばれ、感染予防として手洗いや消毒の励行、マスクの着用や3密(密閉・密集・密接)の回避が求められました。弊社においても、時差出勤や在宅勤務を実施することで感染防止に努めてきました。あれから1年近く経過しましたが、未だコロナウイルスの勢いは収まることを知りません。我々は、さらにハイレベルな「働き方改革」を迫られているようです。

誰も経験したことのないこのようなコロナ禍の中でも、自然災害は容赦なく発生します。建設コンサルタントである私たちは、感染症の流行という過酷な条件下でも安全で安心な地域社会を形成するという使命のもと、常に最良の技術提案を継続するよう心掛けております。

この「技術レポート」は、毎年社内において開催される技術発表会の内容を取りまとめて作成しておりましたが、新型コロナの感染予防のため今年度は発表会自体を行うことができませんでした。当レポートの4編は今年度発表会でプレゼンされる予定であったものであり、この「技術レポート」を作成するにあたり各技術者が執筆しました。

お手すきの際に、ご一読頂ければ幸いです。

これからも、末永くお客様に信頼される総合建設コンサルタントとして、技術力の向上に邁進していく所存です。関係各位におかれましては、今後ともご指導ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。